

CASBEE 広島における重点項目の環境配慮設計概要

(仮称)ライオンズ宇品西

CASBEE-広島 (2010年ver.1)

※下表の空欄に環境配慮設計の概要をコメントしてください。

配 慮 項 目	評価点	重み係数	内 訳			
■ 1. 「地球温暖化対策」の推進						
1.1 建物の熱負荷抑制						
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください	1.0	0.08	Q1	室内環境	2	温熱環境
住宅性能評価 省エネ対策等級3を確保。住戸開口部に遮熱低放射複層ガラス(Low-E)を採用。	5.0	0.43	LR1	エネルギー	1	建物の熱負荷抑制
3.0	0.49					
小計	3.7	0.36				
1.2 自然エネルギーの利用						
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください	3.0	0.50	LR1	エネルギー	2	自然エネルギー利用
	3.0	0.50	LR1	エネルギー	2	自然エネルギー利用
					2.1	自然エネルギーの直接利用
					2.2	自然エネルギーの変換利用
小計	3.0	0.09				
1.3 設備システムの高効率化						
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください。	4.9	1.00	LR1	エネルギー	3	設備システムの高効率化
自然冷媒を用いたヒートポンプ蓄熱システムを採用。						
小計	4.9	0.18				
1.4 設備システムの効率的運用						
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください	3.0	0.03	LR1	エネルギー	4	効率的運用
	3.0	0.03	LR1	エネルギー	4	効率的運用
					4.1	モニタリング
					4.2	運用管理体制
小計	0.0	0.00				
1.5 資源・マテリアル対策						
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください。	4.0	0.08	LR2	資源・マテリアル	1	水資源保護
節水型便器、浴室・キッチンには節湯水洗の採用。	3.0	0.12	LR2	資源・マテリアル	1	水資源保護
	0.0	0.03	LR2	資源・マテリアル	1	水資源保護
	2.0	0.06	LR2	資源・マテリアル	2	非再生性資源の使用量削減
	3.0	0.19	LR2	資源・マテリアル	2	非再生性資源の使用量削減
	4.0	0.16	LR2	資源・マテリアル	2	非再生性資源の使用量削減
	1.0	0.16	LR2	資源・マテリアル	2	非再生性資源の使用量削減
	2.0	0.04	LR2	資源・マテリアル	2	非再生性資源の使用量削減
	4.0	0.19	LR2	資源・マテリアル	2	非再生性資源の使用量削減
小計	3.0	0.26				
1.6 ライフサイクルCO2排出率						
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください	4.8	1.00	LR3	敷地外環境	1	地球温暖化への配慮
可能な限りCO2の排出を削減。						
小計	4.8	0.11				
1. 「地球温暖化対策」の推進の評価						
	3.8	0.72				
■ 2. 「ヒートアイランド対策」の推進						
2.1 温熱環境の向上						
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください。	1.0	0.49	Q3	室外環境(敷地内)	1	生物環境の保全と創出
広島市緑化推進制度の緑化率を確保。	3.0	0.24	Q3	室外環境(敷地内)	3	地域性・アメニティへの配慮
	3.0	0.27	LR3	敷地外環境	2	地域環境への配慮
					2.2	温熱環境悪化の改善
小計	2.0	0.97				
2.2 交通負荷抑制						
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください。	4.0	1.00	LR3	敷地外環境	2	地域環境への配慮
雨水流出量の抑制、適切な駐車・駐輪スペースを確保。					2.3	地域インフラへの負荷抑制
					3	交通負荷抑制
小計	4.0	0.03				
2. 「ヒートアイランド対策」の推進の評価						
	2.1	0.15				
■ 3. 「長寿命化対策」の推進						
3.1 耐用性の向上						
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください。	3.0	0.47	Q2	サービス性能	2	耐用性・信頼性
	3.0	0.12	Q2	サービス性能	2	耐用性・信頼性
	5.0	0.09	Q2	サービス性能	2	耐用性・信頼性
	5.0	0.09	Q2	サービス性能	2	耐用性・信頼性
	3.0	0.04	Q2	サービス性能	2	耐用性・信頼性
	3.0	0.03	Q2	サービス性能	2	耐用性・信頼性
	5.0	0.06	Q2	サービス性能	2	耐用性・信頼性
	3.0	0.09	Q2	サービス性能	2	耐用性・信頼性
住宅性能評価 劣化対策等級3を確保。					2.1	部品・部材の耐用年数
					2	免震・制振性能
					2.2	部品・部材の耐用年数
					1	躯体材料の耐用年数
					2	外壁仕上げ材の補修必要間隔
					3	主要内装仕上げ材の更新必要間隔
					4	空調換気ダクトの更新必要間隔
					5	空調・給排水配管の更新必要間隔
					6	主要設備機器の更新必要間隔
小計	3.5	0.47				
3.2 設備の更新性						
(コメント) ※設計の計画段階に配慮した事項を記載してください。	3.0	0.17	Q2	サービス性能	3	対応性・更新性
	4.0	0.17	Q2	サービス性能	3	対応性・更新性
	3.0	0.11	Q2	サービス性能	3	対応性・更新性
	3.0	0.11	Q2	サービス性能	3	対応性・更新性
	3.0	0.22	Q2	サービス性能	3	対応性・更新性
	3.0	0.22	Q2	サービス性能	3	対応性・更新性
住戸内給水は先分岐工法・排水管のコンクリート埋込なしとし、設備のメンテナンス・更新が可能なレベルを確保する。					3.3	設備の更新性
					1	空調配管の更新性
					2	給水配管の更新性
					3	電気配線の更新性
					4	通信配線の更新性
					5	設備機器の更新性
					6	バックアップスペース
小計	3.2	0.53				
3. 「長寿命化対策」の推進の平均点(上記2項目)						
	3.3	0.13				
■ 重点項目の総平均(上記3項目)						
	3.5					